

みどり と ひと

吉祥寺南町
株式会社スタジオディーン



井の頭通り沿いの小さな花壇は
鮮やかな花が咲き誇る。

会社の部活で花壇と屋上菜園

来年(2025年)に創立50周年を迎えるアニメーション制作会社スタジオディーン。2005年から吉祥寺南町に拠点を構え、約130名のスタッフが働く、平均年齢30代前半という活気あふれる職場です。そんな会社の周囲には美しい花壇があり、道行く人々の目を楽しませています。

じつはこの花壇を、スタジオディーンのスタッフがつくっていることをご存じでしょうか。

「弊社は南町コミュニティーセンターが近くにあり、さらに保育園、小学校の通学路にもなっています。この道を通るたくさんの方々に喜んでもらいたいと思って始めました」というのは園芸部の池田飛鳥さん。そう、この会社には「園芸部」があるのです。植物に触れることで、ふだんの仕事とはまた違う癒しを感じられるそうです。

最初はピラカンサやゴールドクレストなどの低木を植えていましたが、2023年から東京都都市緑化基金の「花壇・庭づくり活動支援事業」の助成を受け、より華やかで目を引く花壇をつくれるようになりました。

園芸部ではその他、屋上での野菜作りにも挑戦しています。また井の頭通り沿いのごみ拾いや雑草とりなどの定期清掃も行っています。こちらは園芸部以外に手の空いたスタッフも参加するとか。

「吉祥寺に移ってきて来年で20年になりますが、園芸部の活動を通して地域に少しでも貢献できればと考えています」と池田さん。活動報告の

ブログも発表されているので興味のある方は読んでみてください。



毎朝の水やりや清掃活動は地域の方々に声を掛けていただき、感謝の言葉を伝えてくださるのがうれしいです。

園芸部の活動報告は
こちらから

スタジオディーン
園芸部活動報告
<https://www.deen.co.jp/>



むさしの 緑・環境の情報誌

みちまちみどり Vol.42

2024年12月第1刷発行

発行 / 武蔵野市

制作 / 一般社団法人グリーンボード

商用・非商用を問わず、無断転載、複写、転用を禁じます。

特集

まちで見つけたみどり

まちで見つけたみどり

小さな自然 と 柔らかな境界

歴史ある並木道、大小の公園や広場など、
武蔵野市には質量ともに豊かなみどりが残されています。
その中でも日常の暮らしのすぐそばにあって、
ホッと息をつける、そんな場所を
武蔵野市在住のお二人に
語り合っていました。

Profile

こざわき みこ
小澤 紀美子さん

東京大学大学院工学系
研究科博士課程修了
(建築学専攻) 後、(株)日
立製作所システム開発研究所研究員、東京学芸大学・
東海大学教授を務める。工博・技術士(地方都市及び
都市計画)。著書『環境保全と環境政策』(岩波書店)、『こ
どもと自然』(公益社団法人 こども環境学会)など多数。

げんだ ゆうた
玄田 悠大さん

東京大学大学院学術専門職員、
DOCOMOMO Japan 事務局長、
けやきコミュニティセンター
運営委員、独立行政法人職員。近代の都市・建築に関
する研究・活動等を通じてその環境継承に取り組む。
『成蹊学園取得地(吉祥寺)の開発経緯-成蹊学園取
得前(明治43年(1910)~大正8年(1919))-'』(武蔵
野ふるさと歴史館だより第11号)等武蔵野市域内に関
する研究多数。

身近にある「小さな自然」

小澤 私が子どもだった頃は、いたるところに野
原や林、土や川があり、遊びながら「自然」に育
てられてきましたが、そんな環境は今の時代には
望めません。それでも武蔵野市にはまだまだたく
さんの自然が残っていますね。

玄田 武蔵野市はみどりが多いといわれています
が、そこには地域の歴史がかかっていると思い
ます。現在の武蔵野市の自然環境には大正時代に
移転してきた成蹊学園の存在も大きいのではない
でしょうか。

小澤 そういえば7階にある私の部屋のベランダ
から、成蹊の歴史あるケヤキ並木や団地や市役所
周辺のケヤキ、サクラ、クヌギなどの大木が見え
るのですが、朝夕眺めていると、外に出なくても
季節の変化を感じることができるのです。

玄田 たとえば京都の人は、まちを囲む山々に、
なんともいえない安心感を抱くそうです。いわば
借景です。並木もそれに似た、まちのシンボルな
のかもしれませんが。

小澤 今回、身近にある
自然を探すために近所を
歩いてみて色々なことに
気づきました。ふだんは
気にもとめなかった道端
のわずかな土に、野草が
育ち、そこに昆虫が集まり、蝶が花の蜜を吸って、
食草に卵を産む、そんな小さな自然のいとなみが
成立していました。雨水を利用した花壇や、ガー
ドレールを囲むように覆うテイカカズラ。個人宅
のタイザンボク的古木など、興味深いものがたく
さん見つかりました。



歩いてみました！



成蹊学園から西にのびる「すずかけ小路」。住宅の道沿
いの小さな連続した緑が豊かな景観を創出。



北裏区画道路のガードレール。テイカカズラが絡みつき、
曲線がオブジェのようだ。歩行者、車窓からも楽しい眺め。



企業の社宅の花壇。道側に緑地が欲しいという地域住民
の要望を会社が設計に取り入れた。ガウラやモナルダが
風に揺れて自然な雰囲気をかもしだしている。

まちで見つけた小さな自然のいとなみ



セイヨウミツバチとコスモス



タンポポの綿毛



ヒメシャラの芽



キアゲハの幼虫



羽を休めるヤマトシジミ



朽木に生育するカワラタケ

玄田 行政や企業が整備する大規模な緑化も大切
ですが、個人のレベルでできる小さな緑化は、コ
ミュニケーションの糸口になる効果もありますね。
小澤 昔ながらの生垣は、昨今は少なくなりました
が、代わりにブロック塀の外側に花の鉢を飾っ
ている家を見かけました。歩行者の目を楽しませ
る心づかいが感じられ、楽しい気分になりますね。

心地よい空間と境界

玄田 塀に囲まれた庭はプライベートなスペース
ですが、その植栽がフェンス越しに垣間見えるの
もいいですね。また道路との間に少しでも土とみ
どりがあれば、みちを歩く人との間に会話が生ま
れることもあります。小さな緑化が、住む人の気
持が少しだけ滲み出す「柔らかな境界」になる
気がします。

小澤 私は今、市内の団地に住んでいるのですが、
そこはたくさんの樹木に囲まれていて、ゆったり
した遊歩道を住人以外の人々も散策できるように
なっています。こどもたちがかくれんぼをしたり、
中学生がベンチでおしゃべりしていたり、花壇の
脇では住人が立ち話をし、それを団地の集会所の
カフェスペースから眺めている年配者がいます。
「閉じられたプライバシー」と「開かれたコミュ
ニティ」の間の、あいまいな空間を人々が行き来
して、ともに自然を感じられるのが心地いいん
ですよね。

玄田 私も、子育てファミリー向けの集合住宅に
住んでいたのですが、そこは建物に囲まれた真ん
中に中庭があり、砂場で遊ぶ子どもたちを各戸か
ら見られる設計になっていました。住民同士が
「見守り合う」というコンセプトの住宅でした。

厳しい「監視」や「決まり事」ではなく、なんと
なくゆるやかな関係性がそこにあるんですね。
小澤 昔の縁側や、土間や、路地の鉢植えなどに
通じるものですね。そういうゆとりを小さな緑化
を通して現代の暮らしに作り出せると楽しいです
ね。たとえば今回のまち歩きの際、花壇のハーブ
の枝を「自由にお持ちください」と出してある家
を見かけましたが、こういうほのぼのとしたやり
取りも、緑化のコミュニケーションのひとつです



ハーブのおすそ分け。



誰もが楽しめる 柔らかな境界



通り抜けできる団地内の遊歩道

武蔵野緑町パークタウンの歩道は計画の段階で設計者と住民が道幅や形状等の細かな検討を重ねて作られているという。



成蹊学園の ケヤキ並木

成蹊学園のケヤキ並木は四季を通じて憩いの空間になっている。中村草田男の歌碑もあり情緒がある。



企業の緑化への取り組み

大規模な建物などを新築・増築する際には、緑化の基準を満たす必要がある。道路沿いにもみどりの空間が確保され、良好なまち並みが形成される。



個人宅の植栽

古くからの住宅地では手入れされた庭の植栽が大きく育っている。門や塀の外側から枝ぶりの良い松などが垣間見えることも。



昔の路地の再現



海外事例



デンマーク

ヨーロッパの住宅街では通行人に向けて窓の外側に花を飾ることが多い。日本では住宅事情の違いもあってベランダや窓の外側に鉢を出すのは難しいケースが多い。



オランダ

ナチュラル素材の店の前で見つけた花壇。様々な草花が揺れる、野原のようなイメージでつくられており、日本の花壇とは雰囲気が違う。

小さな空間でできる緑化



庭がなくても壁面で季節感や温かな演出ができる。



マンションと道の境界にあるヘベリカムの生垣は珍しい。黄色い花が咲くと美しく華やか。



塀の外側の狭いスペースの植栽。花でコミュニケーションがうまれる。



株立ちの落葉樹が植えこまれた個人の庭。狭いスペースに奥行きを演出し、武蔵野の雑木林をイメージさせている。

花壇や庭に雨水を生かす試み

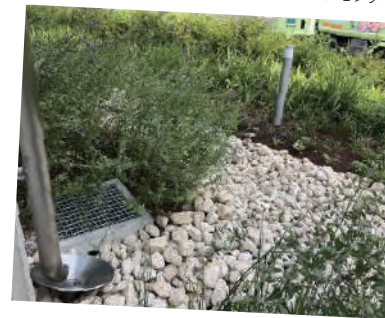
1 雨水タンクの水で育てる花壇「しずくの庭」

雨水タンクを利用し、草花を育てている。掲示板には「ちようのく庭」の説明があり、身近な環境教育の役割も果たしている。通行人が水まきの手伝いもする。
(武蔵野市水道部 交差点付近)



2 雨水をゆっくり浸透させる「レインガーデン」

雨水を直接下水道に流さず、いったん貯留して地中に浸透させるレインガーデン。下水道の処理能力を超える近年の異常気象に備えた「グリーンインフラ」を提言する庭。
(武蔵野クリーンセンター)



3 水害のリスクを減らしながら自然を楽しむ「雨にわ」

雨水を利用して水盤から水が湧き出す築山風の庭。砂利の下には雨水をゆっくり地中に浸み込ませる仕掛けがある。水害を防ぎつつ個人の庭でも取り入れられる演出だ。
(むさしのエコreゾート)



※「レインガーデン」と「雨にわ」について、詳しくは武蔵野クリーンセンター運営協議会が編集・発行の「運営協議会だより85号」をご覧ください。



運営協議会だより85号



むさしの インフォメーション

武蔵野市 緑のまち推進課からのお知らせ

緑のまち推進課：緑化係 ☎0422-60-1863

「緑の基本計画 2019」 中間まとめを作成しました

緑は、私たちにとってかけがえのない財産です。市では、2019年から2028年までの10年を計画期間とする「緑の基本計画2019」を策定し、緑を守り・育む取組を進めています。中間まとめは、計画策定から5年が経過することから、計画における取組みの実施状況と社会的動向などの整理、課題の把握を行うとともに、計画後期の取組みを推進するため作成したものです。

「緑の基本計画2019」の目標のひとつである緑を豊かに感じる場所を増やすためには、公園や街路樹などの公共の緑はもちろんのこと、とりわけ民有地の緑を豊かにしていくことが大切です。市内の緑のうち民有地の緑は年々減少傾向にあります。面積でみると、約30年間で公共の緑が30.69ha増加しているのに対し、民有地の緑は54.06ha減少しています。中間まとめでも民有地の緑に課題が多くあることを確認しました。

では、5年間で人々の緑への関心は薄れたのでしょうか。むしろ、関心は高まっているように思えます。新型コロナウイ



武蔵野市HP
緑の基本計画2019



ルスの流行により、都市における公園へのニーズや身近な緑の価値が再認識されました。自然との接触が身心の健康を促進することが広く知られるようになってきました。また、ここ数年の記録的な暑さでは木陰の存在がなくてはならないものになっています。

緑を増やしていくためには、市民のみなさんの協力が必要です。まずは、みなさんが日々の暮らしの中で身近な緑を楽しみ、豊かな暮らしを実現する。その積み重ねが「緑の量・質ともに豊かな武蔵野市」につながると考えます。



「みちまちみどり」
緑の良さを実感する情報を紹介しています。



ボランティア活動による花壇は
公園に彩りをそえています。

「みちまちみどり」配付のご紹介
「みちまちみどり」は、武蔵野市役所2階緑のまち推進課、図書館、公共施設のほか、協力店舗等でもお受け取りいただくことができます。発行後、一定期間が過ぎましたら、その後は緑のまち推進課のみでの配布となります。

※P6のイラストは
「武蔵野市緑の基本計画2019中間まとめ」より。

武蔵野市役所環境部からのお知らせ

環境政策課：むさしのエコreゾート ☎0422-60-1945
休館日：火曜、祝日（月曜が祝日の場合は月曜閉館、水曜休館）年末年始

むさしのエコreゾートってどんなところ？

武蔵野クリーンセンターの西側に位置する「むさしのエコreゾート」は、市民との議論を重ねて実現した市民参加型の環境啓発施設です。市民や市民団体、事業者、市などの多くの方々や団体が参加して、ごみ問題をはじめとして、環境を切り口に一緒に考え、学び合い、行動・活動していくことを目的としています。

むさしのエコreゾートの建物は、初代のごみ処理施設「武蔵野クリーンセンター」をリノベーションして活用しています。収集車のごみを積み下ろしていたプラットホームの大空間には、週末に不定期でワークショップなど開催するフリースペースと、子どもたちがいつでも廃材を使って自由に工作ができるものづくり工房があります。

また、ミニキッチンを使ったエコクッキングなどのワークショップも開催するカフェスペースや、書棚の本を読んだり勉強できるスタ



公式HP



公式Facebook



公式Instagram



むさしのエコreゾート 外観

ディールーム、アーカイブスペースがあります。

むさしのエコreゾートでは、ワークショップのほかにも環境を学ぶ講座「環境の学校」を始めとした様々な環境啓発事業を行っています。イベントやワークショップの様子をむさしのエコreゾートのホームページやSNSでご紹介していますので、ぜひご覧ください。皆さんの来館をお待ちしています！



ものづくり工房



フリースペース



カフェスペース

下水道課：事業計画係 ☎0422-60-1868

雨水浸透ます・雨水タンクの設置にご協力ください ～市の助成制度があります～

雨水を地面にしみ込ませ、雨水の河川への流出を抑制する等の効果があります。個人住宅などに設置する場合、市の助成制度があります（既存住宅の雨水浸透ますはほぼ無料で設置可能）。



武蔵野市HP
雨水の浸透や利用にご協力ください
(雨水浸透ます、雨水タンクの助成制度)



タンクン(下水道課キャラクター)



まっすん(下水道課キャラクター)



編集 / 鈴木圭子 明石和美
小出行観 牧野桂子
デザイン / ますだすみれ
編集顧問 / 中村滋

お問合せ先

武蔵野市環境部緑のまち推進課
〒180-8777 武蔵野市緑町 2-2-28
☎0422-60-1863
e-mail SEC-MIDORI@city.musashino.lg.jp



武蔵野市公式HP
「みちまちみどり」